

I 編 病理学総論

1章 病理学序論と病因論

1-1 病理学とは

病気（疾病 しっぺい）の原因（ ）、発生機序、進展、（ ）を学ぶ。

1. 疾患の多様性と共通性

ヒトは生物学的共通性を有しているが、異なった（ ）構成に基づく個性を有し、人体に生じる疾病には多様な（ ）と共通性がみられる。

2. 疾病と病態

疾病とは、生体の（ ）から逸脱した状態。病的状態を（ ）と言う。診察や検体検査によって（ ）診断がなされ、（ ）診断は、確定的診断である。

3. 疾病の経過と転帰

疾病は、（ ）、発病、最盛期（極期）、回復期、慢性化、治癒の経過をとる。治癒には、（ ）か（ ）がある。組織や細胞の死を（ ）と言ひ、個体死を心臓死と考えるが、移植医療による救命への配慮から（ ）も個体死と考えられる。

2-1 病因論

病気の原因には、（ ）と（ ）がある。

1. 内因

1) 素因と体質

ヒトとして共通する素因と個人の特性である体質が挙げられる。

2) 内分泌異常・・・ホルモン産生する内分泌腺の機能亢進や機能低下

3) 免疫応答異常

2. 外因

1) 物理的因子・・・機械的力、温熱、電気、放射線等

2) 化学的因子・・・公害病や薬剤による医原病

3) 生物学的因子・・・微生物による感染

4) 栄養障害・・・栄養素の欠乏や過剰摂取